

川村雨谷 あまぐさ 南宗畫家、篆刻家、俳人。天保九年八月八日江戸生れ、明治二十九年十一月二十九日歿（八三六―一九〇六）。講應心、字廣卿。・守国、幼名治郎太、通稱新介。別號沐翁、太白山房、宜雨亭、宜雨艸堂、發竹艸堂、枯木庵、枯木庵寫眞、無生居士、爲墨、爲谷、爲黒、瑞芝山房、種竹萬年艸堂、紫溟、陸蓮子等。慶應初年長崎奉行支配役、維新後司法官として各地の裁判所、控訴院、大審院に歴任し、二十一年退官。この間木下逸雲の學入で南宗畫を能くし、また篆刻に長じた。俳諧は明治二十八年、尾崎紅葉、角田竹冷、岡野知千等の興した秋聲會に加はる。

著書 『夏爐冬扇』（川村爲墨名、合著・松田寅熊編、明治二十四年六月）二十回俳聲發行所「俳聲叢書」(一)等。